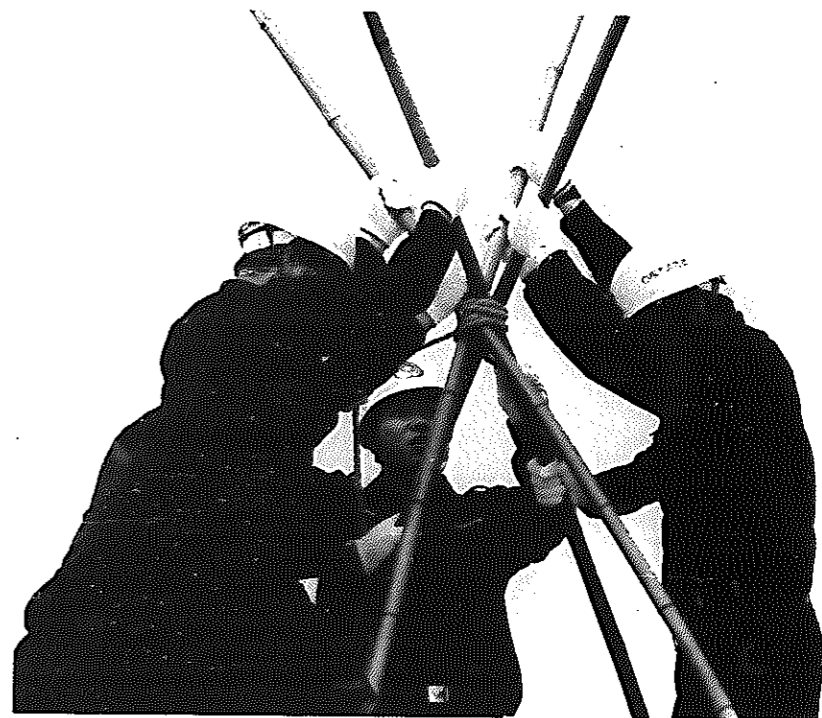


まちを守る 水防活動

信濃川下流 水防演習



▲降雨体験コーナー。さまざまな雨量を体験することができます



▲土のうこしらえを体験する見学者



▲避難訓練に参加する地域の皆さん



5月27日、白井橋下流で行われた信濃川下流水防演習は、見学者を含めると約5,000人が集まる大規模なものとなりました。本市からも176人の消防団員が参加。日ごろの訓練の成果を披露しました。演習では万一の事態に備えた水防工法や水難救助訓練が行われたほか、多くの体験・展示コーナーが設けられました。

「活発な梅雨前線の南下に伴い、局地的な激しい大雨。信濃川の水位は急激に上昇し、堤防が決壊するおそれ…」このような想定で、五月二十七日、赤洪水先（白井橋下流左岸河川敷）で信濃川下流水防演習が行われました。これは、建設省北陸地方建設局、新潟県、白根市などが主催したもの。演習は、本市をはじめとする六市十一町六村の消防団員のほか、陸上自衛隊、航空自衛隊、新潟県警察本部など約一千四百人が参加し、日ごろの訓練の成果を披露しました。演習では、消防団員が木流し工、T型マット工、月の輪工、改良積み土のう工などを実施。万一の事態には、迅速かつ的確な作業が重要になってくるだけに、団員の表情も真剣そのものです。

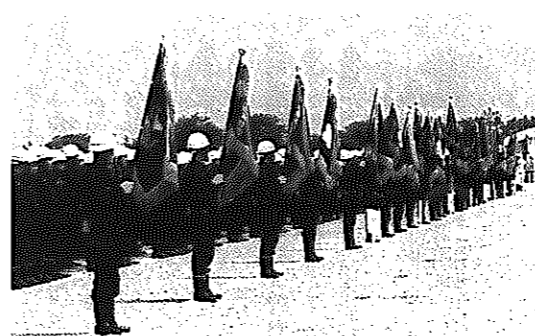
また、航空自衛隊新潟救難隊、新潟県消防防災航空隊、新潟県警察本部による水難救助訓練では、ヘリコプター三機が出動。水難者の発見から救助、搬送までの演習を披露しました。特に、ヘリコプターからホイスト（ロープ）を使って救助する隊員に、見学に訪れた人たちははどよめきが起こっていました。

そのほか、「中州に取り残されている人がいる」という想定で、白根地域消防本部がロープを使って救助し、日本赤十字社新潟県支部はその救助された人の応急手当

をした後、病院に搬送するまでを披露しました。また、参加型の演習として、見学者が土のうこしらえを体験したり、白井・大郷地区の住民と白井小・中学校の生徒の皆さんによる避難訓練が行われたりと、地域と一体となった演習となりました。

近郷では十年ぶりの水防演習に、市内外から多くの見学者が訪れました。白井から見学に訪れた女性は「めったにないこと。子どもも参加した避難訓練は、いい経験になりました。水難救助、素晴らしいです」と話してくれました。

これまで幾多の水害との闘いの歴史をもつ本市。毎年、世界各地で大きな災害が発生しています。今回の水防演習をきっかけに、万一の事態に備える大切さを忘れなようにしたいものです。



さまざまな水防工法

木流し工



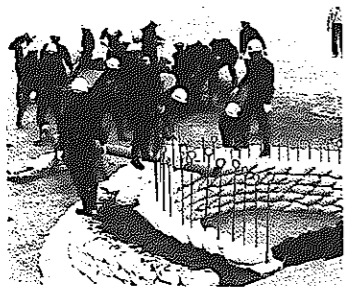
枝葉の生い茂った立ち木を根本から伐採し、枝や幹に土のうを付け、留めくいに結束して堤防の崩壊面に固定する工法。木の葉や枝は激しい水の当たりを弱め、堤防が崩れるのを防ぎます。主に急流部で実施される工法です。

T型マット工



堤防が浸水し始めたときなど、堤防のり面の崩壊防止と水の浸水防止を目的として川表にマットを張る工法。マットのあたり止めとして上端にパイプを、下端には土のうを取り付け、マットをのり面に下ろし、土砂を詰めます。

月の輪工



堤防裏側から漏水が始まった場合に、吹き出し口が大きくなるようにし、堤防が崩れるのを防ぐために用いられる工法。土のうを半円形に積み、この中に漏水をためて川表から染み込んでくる水の圧力を弱めます。

改良積み土のう工



堤防が沈下したり、増水して水が堤防を超えるおそれがある場合には、堤防の天端に土のうを積み上げ、越水を防ぎます。この工法は、さらに積み土のうの前面にシートや笠などを使い、積み土のうを強化するものです。